



お米のある幸せ

邑楽町立邑楽中学校 2年

齋藤 美音

この夏休み、部活のない日は、ご飯を炊くことが私の仕事になっています。今までにも、ご飯を炊いたことは何度もありますし、お米を計量・洗米した後、炊飯器の内釜の目盛りに合わせて水を加え、炊飯器にセットしてスイッチを入れれば完了するので、難しいことはありません。小学生でも、もしかしたら小学校に入る前の子供でもできることです。しかし、毎日となると、面倒だな、とつい思ってしまいます。

私の家では、基本的に夕飯の主食はご飯です。朝食もご飯が多いです。昼食は給食なので、それを食べますが、高校生の姉は、「絶対にご飯！」と言って、ご飯のお弁当やおにぎりをいつも持って行きます。おいしくて、腹持ちが良いところが好きなのだそうです。もちろん、私も、それだけでもおいしく、アレンジもいろいろできるご飯が大好きです。当然ですが、家でご飯しか食べないわけではありません。パンやパスタ・そば・うどん・ラーメンといった麺類も食べますし、好きです。けれども、やはり、毎日でも飽きることなく食べるのでできるご飯は、特別です。

実は、私は小さいころ、ご飯があまり好きではなかったそうです。私自身は記憶にないので、その話を聞くと、いつも不思議な感じがします。だから、なぜ好きになったのかは分からないのですが、さらに大好きになったきっかけは、よく覚えています。

ひとつは、年長のときに幼稚園でした米作り体験です。園の近くの本物の田んぼで稲を育て、時々散歩をしながら成長を見守りました。穂が出てくると、みんなでかかしを作って田んぼに立てて、敵から守ってもらいました。今考えると、私たち子供は、ほとんど何もしていなかったのですが、当時は全て自分たちで育てたつもりでいました。なので、お米になったときは、達成感と嬉しい気持ちでいっぱいでした。後日、そのお米を炊いておにぎりを作ってもらい、けんちん汁といっしょにみんなで食べた、そのおいしさは忘れられません。

もうひとつは、小学校五年生のときにした、これも米作り体験です。このときは、学校の敷地内に作った田んぼで育てたので、せまかったけれど、田起こしから脱穀まで、ひと通りのことをしました。そして、できたお米を、今度は自分たちで炊いて食べました。こちらも幼稚園のときと同じくらい、心に残っていて、ご飯のほのかな甘味と弾力のある味の良さを再認識した出来事でした。そして、さらに、この体験を通して、米作りの大変さ（身体的な苦労とがんばっても出来上がりは天候に左右されやすいところなど）と、農家のみなさまのお米への愛情を知ることができました。このようにして作って下さっている方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。

私の住む町には、田んぼがたくさんあります。家から少し離れると、初夏に植えられた稲が大きくなり、現在、一面緑色になっています。今年の関東地方の夏は、水不足といわれていて、少し心配しましたが、天候に恵まれて、順調に育つといいな、と思います。そして、秋には、おいしい新米をお腹いっぱい食べたいです。

ご飯を毎日食べることができるのは、幸せなことです。私が炊いたご飯を家族に食べてもらうことも、本当は幸せです。面倒に感じていても、

「美音が炊いてくれたご飯は、とてもおいしいね。」

と言ってもらうと、また明日も任せてね、と心の中で思ってしまう私なのです。